

森林やまがた

No.67

2002 10月

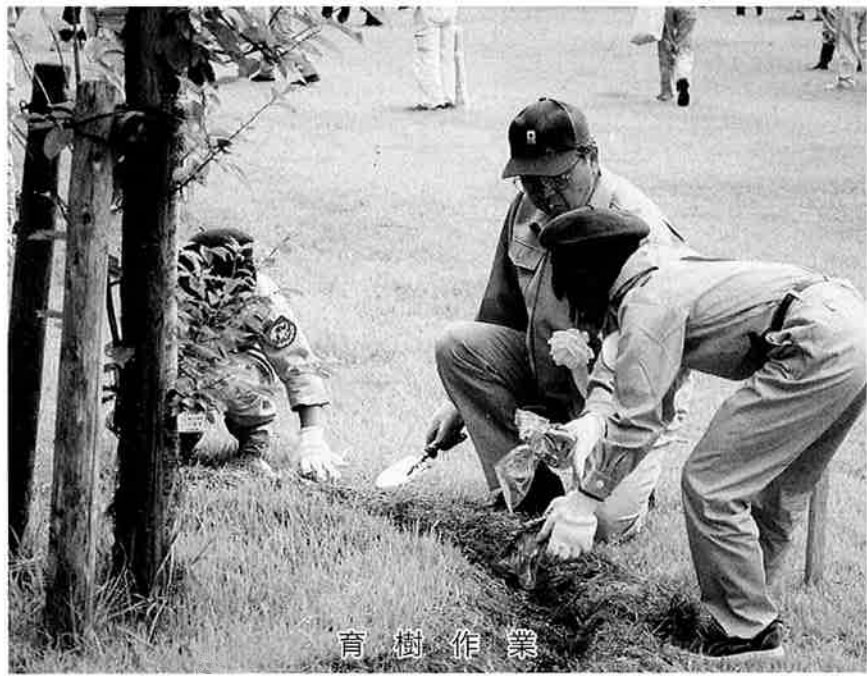
緑色 いろんな夢が 育つ 第14回 山形県育樹祭



目次

緑色 いろんな夢が 育つ色.....	2
平成14年度山形県育樹祭開催される フォーラム「21世紀を森とともに に生きる」.....	3
県産きのこ消費拡大.....	4
山形県しいたけ産地構造改革計画...	5
緑の少年団活動報告 自然が豊かな学校.....	6
現地ルポ 山里フォーラムinかねやま2002...	7
センタートピックス 酸性雨による森林被害は.....	8
未来の森林を若い世代に託す...	9
山形の古木・名木.....	10
公共木造施設.....	10
お知らせ.....	11

(表紙写真は第14回山形県育樹祭)



育樹作業

緑色 いろんな夢が 育つ色

—平成14年度 山形県育樹祭 開催される—

去る九月六日に「鮭川村エコパーク」で山形県育樹祭が開催され、約六百名の方の参加がありました。

「清流さけがわ太鼓」のアトラクションでオープン、「緑の少年団活動発表大会」「育樹祭式典」「育樹作業」と続き、「木に親しむ教室」で終了しました。

「緑の少年団活動発表大会」で

は、県内三ブロックから選ばれた代表三団体が日頃の活動を通じて体験したことや抱負等を発表し、金山町立有屋小学校緑の少年団が最優秀に輝いた他、山形市立西山形小学校と尾花沢市立鶴子小学校の緑の少年団が優秀賞を受賞しました。

「育樹祭式典」では、主催者代表の金森副知事の挨拶に始ま

り、小屋鮭川村長による歓迎の言葉、来賓祝辞の後、表彰に移りました。

○知事表彰

・全国植樹祭、全国林業者大会 協力団体

金山小学校 他40団体

・山形県森林・林業功労者

温海町林業研究会・大山進

・民有林間伐コンクール

鈴木忠市郎 他12人

○鮭川村長表彰

・育樹祭開催テーマ

黒坂夏樹 他5人

○みどり推進機構理事表彰

・民有林造林コンクール

富樫孝一・高玉区

・緑の少年団活動発表

有屋小学校 他2団体

○最上地域林業振興協議会会長

表彰

・緑化功労者

最上町森林愛好会

その後、副知事から鮭川村内小学校に、記念品の贈呈が行われ、式典を終了しました。

「育樹作業」では、参加者全

員でエコパーク内の樹木約二百本に施肥・土壌改良を行った後、緑の少年団を対象に「木に親しむ教室」が行われ、エコパーク内の森林を利用したウォークラリーを楽しみました。



緑の少年団の紹介

フォーラム「21世紀を森とともに生きる」

都市と山村の交流をめざして

森との共生構想21普及協議会

が主催する、フォーラム及び関

連行事が八月三十一日(土)と

九月一日(日)に金山町で開催

され、約二百名が集いました。

①フォーラム「21世紀を森と

もに生きるvol.2」

フォーラムは「森林物語」と

題し鼎談形式で行われました。

民俗学者の森宏太郎氏より、

民俗学の視点からみた東北の森

林文化について話があり、芳村

真理氏のコーディネートのもと、

森林組合長の岸三郎兵衛氏が、

林業者の立場から現在の林業に

ついて思いを語りました。

②ワークショップと街並み散策

カムロファームと谷口がっこ

そばに別れ、リース作り・そば

打ち体験を、また金山住宅の街

並み散策を楽しみました。

作業の楽しさはもちろんです

が、都会暮らしでは見られない

牧場風景や、木造校舎の味わい

などがなによりも喜ばれ、「もつ

とここでゆつくりしたいね」

という声がしきりでした。

③交流会

シェーネスハイム金山での交

流会では、神室箕市・夢市グル

ープが地元の家庭料理をたっふ

り用意してくれました。

会場の外はイワナの塩焼きや

味噌つけ焼きおにぎり等、お祭

りの夜店さながら。金山名産「ニ

ラ」のシフォンケーキなどもあ

り、意外なおいしきで女性の心

をつかんでいました。

④森のウォーキング

「ふれあいの森」でのウォーキ

ング。インストラクターと森の

案内人の案内により、白神山地

にもひけをとらないブナ林を散

策しました。一面のブナに、皆

ただただ感嘆の溜息。珍しい植

物も見られ、どのコースも元気

いっぱい帰ってきました。

このフォーラムを機に都市と

山村の交流がさらに進んでくれ

ればと思います。(県森林課)



鼎談(左より芳村、森、岸の各氏)



会場外でのおもてなし



森のウォーキング

県産きのこの消費拡大

学校給食関係者等きのこ料理研修会の開催

(庄内総合支庁森林整備課)



茸の和風スープパゲティ

調理研修

山形県は全国有数のきのこ生産県であり、近年の自然・健康食品志向を背景にきのこに対する県民の関心が高まっています。が、県内のきのこ生産量は、伸

び悩んでいます。

そこで、県産きのこの消費拡大、地元産の農林水産物を地元で流通させる「地産地消」の推進を図るため、調理師や栄養士

等を対象に、八月五日に八幡町中央公民館、八月七日に立川町保健センターで、鶴岡市在住の料理研究家、漆山麗子先生を講師に迎え、きのこに関する講話、調理研修、試食、意見交換会を実施しました。

講話では、きのこは水分が九十パーセントの食材なので水洗いは控えめで良いこと、生活習慣病に効果的な食材であることなどのほか、きのこの種類ごとに調理にあたってのアドバイスなどを頂きました。

調理研修では、ブナシメジやエノキタケなどきのこをふんだんに使った「茸の和風スープパゲティ」やシイタケ・エリンギ・月山筍を使った「色々茸と筍の鶏肉のスープ煮」など、両会場あわせて九種類のきのこ料理について研修を行いました。

試食のあと行った意見交換会

では、「給食にそのまま使えそうなメニューがあった」「きのこを洗わないことに抵抗があった」などの意見が出され、さらに参加者のアンケートでは、「家庭でさっそく作ってみたい」「時期的にちょうど良かった」などの回答があり、大変好評でした。

今回、すべてのきのこを地元産でそろえることが出来ず残念でしたが、今後開催地である八幡町・立川町を中心にきのこ給食を実施する予定となっており、すので、地元産のきのこを給食に使用していくきっかけにしたいと考えております。また、庄内総合支庁では、今年度から毎月二十一日を「庄内産品食の日」として、地産地消を推進していく取組みも始めています。これらの取組みを通してきのこの消費拡大を図り、農山村の振興につなげていきたいと考えています。

森林・林業基本法に基づく「森

林・林業基本計画」の中で、特

用林産の振興については、山村

における定住促進や就業機会増

大策の一つとしてその推進を図

ることが掲げられています。

この中でしいたけについては

山村地域の雇用と所得の確保を

図る上で特に重要な品目となっ

ています。しかし近年、生しい

たけの輸入に伴う国内価格の低

下や生産者の所得の大幅な減少

が生じ、山村地域の経済に大き

な影響が出ていることから、し

いたけ産業を早急に国際競争力

のある産業へ転換することが必

要です。このため、各産地にお

いても生産者等が構造改革のた

めに具体的な取り組みを進める

ことが重要となっています。

これらの取組を効率的かつ効

果的に実施するため、本県でも

県しいたけ産地構造改革計画を

一 計画期間

平成一四〜一六年度

山形県しいたけ産地構造改革計画

(平成14~16年度)

二 作成単位

県を単位として作成

三 構造改革の基本的考え方

しいたけの生産振興を図るた

め、林業・木材産業構造改革事

業やその他の補助事業を活用し、

次のような経営の改善、生産体

の培養センター方式の導入

②流通対策 市場外流通の拡

大などの流通経路の短縮化や共

同選別・共同出荷による品質の

安定と流通ロットの拡大

③消費対策 原産地表示等の

徹底により消費者への新鮮・安

心・安全イメージの情報提供、

地産地消の推進による消費拡大

四 その他

しいたけの生産振興について

は、生産・流通コストの低減や

需要拡大を推進するとともに、

本県の特徴である豊かな自然環

境を活かし、自然の力を活用し

た原木栽培の促進やグリーンツ

ーリズムでのきのこの収穫体験

など、「山形らしさ」を打ち出し

た取組みに努めてまいります。

〔県森林課〕

しいたけ構造改革の目標

区分	項目	現 状	目 標	
生産面	労働時間	原木栽培	2,725 h/万本	2,453 h/万本
		菌床栽培	1,315 h/万袋	1,184 h/万袋
	生産コスト	原木栽培	710円/kg	675円/kg
		菌床栽培	671円/kg	637円/kg
	生産量	原木栽培	363 t	432 t
		菌床栽培	385 t	455 t
流通面	流通コスト	原木栽培	220円/kg	209円/kg
		菌床栽培	259円/kg	246円/kg

緑の少年団

活動報告



山形市立双葉小学校
緑の少年団

5年 飯野 裕也

自然が豊かな学校

負けずに外で雪遊びをします。
このようにぼくたちは、一年中
自然と仲よしです。

ぼくたちの学校は、山形盆地
の西側、白鷹山の北東に広がる
自然豊かな所にある「丘の上の
学校」です。雪
がとけると福寿
草の花がいっせ
いに花を開き、
春のおとずれを
知らせてくれま
す。その後たく
さんの植物や昆
虫、野鳥などが、
ぼくの目や耳を
楽しませてくれ
ます。夏はカブ
ト虫取りができ
ます。秋は紅葉
で、山が燃えて
いるように赤く
なります。冬は、



ほだ木に植菌

いっせいに芽を出しました。す
ごい生命力だと思えました。
今では大きいもので三十センチ

去年の秋、双葉地区はもちろ
ん市内のあちこちから、みんな
でどんぐりを集めてきました。
それを水の中に入れて、沈んだ
いいどんぐりを鉢に植えました。
冬の間、雪の下でじつとがまん
していたどんぐりは、この春、



すごい生命力だなあ

今年、しいたけとなめこの二
種類を植えました。菌をほだ木
に丁寧に打ちこみ、しいたけは

います。縦割り班で分担し、
全校みんなで水かけをしてい
ます。元気に成長しているの
で、とてもうれしいです。
また、毎年五月には、きの
この植菌活動をしています。

学校のうらに、なめこは山の子
広場に置いて育てています。菌
植えしたしいたけが大きくなる
と、みそ汁にしたり炒め物にし
たりしてみんなで食べます。一
生忘れられない思い出の味にな
りそうです。
今年、そば作りにも挑戦し
ています。夏休み中、地域の方
に教えていただきながら種をま
きました。二期が始まってす
ぐ見に行ってみると、一番大き
いので十七〜八センチメートル
になっていました。芽を出すの
が早いなと思いました。日かげ
にある方が大きく、太陽の方を
向いてななめに生えていたので、
びっくりしました。そばは、ほ
とんど水をかけなくてもいいそ
うです。十一月頃には食べられ
ると聞いたので、楽しみにして
います。早く収穫して、自分の
手でそばを打ってみたいです。

——杉沢の林業グループ「親林倶楽部・森の案内人」——

山里フォーラム in かねやま2002

最上郡金

山町杉沢の

林業グルー

プ「親林倶

楽部・森の

案内人」が中心となって開催する『山

里フォーラム in かねやま2002』

が、八月二十四日から二十五日にか

けて当地で開催されました。

今年で九回目になり、講演、

パネルディスカッション、シン

ポジオン、次の日の森林体験と

四部構成で、金山町や森林整備

課の後援のもと、常連になった

方も含め全国から約五十人が集

まりました。

講演は恒例になっており、「山

里哲学講座」と題して群馬県上



野村に住む哲学者内山節氏によ

り行われ「文化の基は山里から

発信されたが、膨張した都市文

化は自然に対して危険、今の内

見直し実行すべき。」との内容で、

山奥で居を構え村起こしを实践

している氏の語りには多くのフ

アンがいることをうなづ

かせるものがあります。

パネルディスカッショ

ンは、森林整備課鈴木秀

伸の「森林インストラク

ターの経験談」などと大江町の

民放の前キャスター佐藤（旧姓

松田）明子氏の「取材に来てこ

のフォーラムの常連になった感

想と特異性」、主催者代表栗田和

則氏の「杉沢からの発信経過の

成果」との内容で参加者とは活

発な意見交換が行われました。

その後は、栗田和則氏宅に場

所を移し、一番楽しみな三グル

ープに分けての

交流会形式のシ

ンポジオンが行

われました

た。

参加者

が持ち寄

ったもの

や杉沢ならではの

の自然豊かな料

理と酒、果実酒

などで活発な意見交換がなされ、

時間の経つのも忘れるような状

況でした。

現地 ルポ



次の日は十人程度になりまし

たが、山へチェンソーや鎌、鉈

などを持って「森遊び」が行わ

れました。親林倶楽部のメンバ

ーが指導員となり、山へ入る心

構えからチェンソーの取り扱い、

鎌鉈の研ぎ方など、基本を再確

認し、杉の間伐をする者、広葉

樹林を自分の好きなように苅り

払うなど各

種森林体験

を満喫しま

した。

参加者は、

自分の手が

入った山は

来年どうな

っているだ

ろうとの楽しみ

があり、毎年常

連が増える原因ともなっているよう

です。

〔最上総合支庁森林整備課〕

酸性雨による森林被害は

○はじめに

地球環境問題の一つでもある酸性雨は、本県でも継続して観測されています。

このため、県では平成七年度から酸性雨対策総合モニタリング調査を

実施しています。

調査は、県内八ヶ所の湖沼とその集水域を対象に酸性雨の実態、湖沼、土壌、植生などの生態系及び建造物に対する影響を把握するとともに、継続的な監視

視を行い、酸性雨による被害の未然防止を図ることを目的に実施しています。

年度	調査地点
H7	新鶴子ダム、赤地山ダム
H8	神室ダム、荒浪ダム
H9	沼山大沼ダム、水窪ダム
H10	蔵王ダム、月光川ダム

酸性雨及び湖沼影響調査は環境保全センター、土壌調査は農業試験場、植生調査は当センターが担当しました。

酸性雨とは、PHが5.6以下の雨のことで、化石燃料を燃やすことにより二酸化硫黄や窒素酸化物が大気中に放出される。これらの

汚染物質が硫酸や硝酸に変わり大気を酸性化し、森林、土壌、陸水、建造物等に影響を与えます。

○調査結果

一 酸性雨調査 PHは4.5～

5.3、平均値は4.9で、朝日村が最も低い。冬季に低く、夏季に高い傾向があり、一月が最も低い。これは冬季の季節風によつて大陸から運ばれた大気汚染物質による影響が大きいと考えられています。

二 湖沼影響調査 PHは6.3～7.2、平均値は7.0で、沼山大沼が6.3と最も低く、酸性雨による影響が懸念されます。

三 土壌調査 表層土壌のPHは4.1～5.8、平均値は4.9で、緩衝能の高い土壌は奥羽山系に

多く、朝日山系の土壌は酸性化が進んでいる傾向があります。

四 植生調査 針葉樹林四カ所、広葉樹林四カ所を選定し、高木の衰退程度を調査しました。衰退程度は樹木の樹冠の状態からA(健全)、B(やや衰退)、C(衰退)の3区分としました。

調査結果、現時点では八地点とも樹冠は健全な状態であり、森林衰退などの影響は認められませんでした。

○今後の課題

今回の調査だけでは酸性雨の影響により酸性化が進行しているものかどうかは解らないため、長期にわたり継続的に調査を実施していく必要があることから、平成十四年度から四カ年計画で第二次酸性雨対策総合モニタリング調査を開始しております。

〔森林研修研究センター〕



未来の森林を若い世代に託す

森林経営インターンシップ促進事業



微妙な操作が難しい(プロセッサ)

県森林研究研修センター

九月二日と三日の二日間、県立村山農業高等学校環境科学科の二、三年生を対象に、森林経営インターンシップ促進事業を開催しました。この事業は、森林に関する学科を専攻する高等学校の生徒を対象に、高性能林業機械をはじめとする体験学習を行い、森林に関する業種への就業の促進をめざすもので、今回が八回目の開催となります。

これまで、県内各地の森林を会場に実施してきたこの事業ですが、今回は村山農業高等学校実習林を会場に開催しました。以前は、生徒たちが下刈りや間伐実習をしながら管理してきた実習林も、学科の改編とともに、実習の時間も次第に少なくなってきました。そこで、高性能林業機械を使った新しい作業システムを体験しながら自分の学校の森林を管理することで、森林に対する意識を高めるとも森林管理の必要性を理解してもらおうと、会場を学校の実習林に設定したのです。

会場には、スウィングタワーヤーダ、プロセッサ、フォワードの三種類の高性能林業機械のほか、自動枝打機やチップパーなど、最先端の機械が勢ぞろいしました。参加した生徒は、この事業を受託した山形県林業機械化協会の会員から機械の特性についての説明を受けるとともに、各機械のデモンストレーションを見学したあと、実際に高性能林業機械を操作し、集材から造材、積み込み作業までの一連の作業を実習しました。手や足先のかかとも使った操作に悪戦苦闘しながらも、生徒たちは最新の作業システムを楽しく体験しました。

とかく重労働のイメージがつきまとう山仕事ですが、高性能林業機械の普及とともに、安全で効率的な森林経営が期待され、全国的に若いオペレーターが森林の現場で活躍しています。森林と環境がグローバルな課題として注目される中で、少しでも多くの若い世代が森林の分野を生涯の仕事として選んでくれることを期待し、これからもこの事業を継続していく計画です。



真剣なまなざしが印象的でした(スウィングタワーヤーダ)



山形県の古木・名木④③

霞城公園の サイカチ

山形市霞城町

(案内略図)



最上義光五十七万石の居城だった城址二の丸濠の土手には、古木も多く、その全体が山形市の保存樹林に指定されている。山形市の巨木ベスト20のうち五本は当樹林にあり、このサイカチはそのなかの一樹。

サイカチは河原など水辺の原野に多いマメ科の落葉高木で、幹には枝の変化した奇妙なトゲがある。長さ二十〜二十五センチ、幅三センチ内外、平たい三日月形の、うちには扁平な種子を持つ実をつける。

これは、樹高十五メートル、目通り幹周六メートルの、サイカチとしては迫力のある巨木。樹齢は不明であるが、つい最近のこととしては、戊辰戦争に否応なく巻き込まれざるを得なかった山形水野藩のその光芒と陰影をまのあたりにしていることだけは確かである。〔県みどり推進機構〕



公共木造施設 ⑦

南陽市立 中川児童館

南陽市川樋



完成年度 平成13年度
 延床面積 499.34㎡
 構造 木造平屋建
 特徴 採光に配慮した明るい建物で、木のあたたかみに子どもたちがつまれる感じ。
 問い合わせ先 南陽市役所健康福祉課



大盛況のウッドフェスティバル2001の様相

ウッドフェスティバル2002

庄内森林まつり

「くらしに生かそう、木のよさを」

今年で十三回目となるウッドフェスティバルが左記のとおり開催されます。楽しい催し物が盛りだくさんです。皆様のご来場をお待ちしております。

一日時

十月十九日(土) 十時～

十月二十日(日) 十五時まで

二場所

鶴岡市小真木原公園内

体育館周辺広場

三主催

山形県、鶴岡市

四 催し物内容

- 木工やネイチャークラフト等の体験コーナー
- 緑化木や林産物のプレゼント

- 伝統的な「どんづき」の実演と酒や赤飯のふるまい
- 太鼓演奏等の各種催しもの
- 木材、森林、林業をわかりやすく紹介する各種展示



楽しい秋の一日を十分に満喫していただけるとうけあいでしょう。

〔庄内総合支庁〕

○ 木工品、林産物等の展示販売

他にも楽しい催し物をたくさん用意しております。

また、当日は「緑の鶴岡農林水産まつり」と「山形県技能まつり」も同時に開催されます。山から海までさまざまな自然の恵みが勢ぞろいしますので、

楽しい秋の一日を十分に満喫していただけるとうけあいでしょう。

ぜひご参加ください。

一期日

審査会 十一月二十五日(月)

表彰式 十一月二十六日(火)

二会場

最上広域交流センター

「ゆめりあ」(新庄市)

三主催

山形県きのご振興会

四 出品品目

生しいたけ、なめこ、ひらたけ、えのきたけ、まいたけ、ぶなしめじ、えりんぎ

五 表彰

農林水産大臣賞

林野庁長官賞、県知事賞

六 問い合わせ先

最寄りの農協、森林組合、総合支庁・分庁舎森林整備課

七 その他

十一月二十六日(火)、同会場で品評会出品物の即売会を開催します。



第15回きのご品評会 農林水産大臣賞

今年で十六回目となる「きのご品評会」が左記の通り開催されます。県産きのこの品質並び

に栽培技術の向上を図る目的で開催され、毎年多数の出品をいただいておりますが、今年も、

山形県きのご品評会

の御案内

県民の皆様へ

みなさま 皆様に、安全な果物をお届けするため、
 あんぜん くだもの とど
 げんざいつぎ たいさく
 現在次のような対策をすすめています。



- 県産の果物については、生産者から「無登録農薬を使用していないこと、農薬の使用にあたっては県の防除基準に基づいていること」などの『誓約書』の提出を求めたうえで出荷しています。
- 『ラ・フランス』、りんごの『ふじ』を販売する全ての農家は、出荷前に無登録農薬（ダイホルタン）の残留分析検査を実施し、無登録農薬が使用されていない証明を提出のうえ出荷しています。
- 果物の出荷にあたっては、出荷責任者の連絡先を明記し、責任の所在を明確にして出荷しています。

今後とも、県産農産物に対して、変わらぬご愛顧をお願い申し上げます。

山形県 J A 無登録農薬緊急対策本部・山形県

問い合わせ先 山形県農林水産部生産流通課 TEL023-630-2678
 J A 全 農 山 形 TEL023-634-8145
 J A 全 農 庄 内 TEL0234-26-5321

無登録農薬問題に関する取組みについては、「消費・流通緊急対策」「残留分析結果」「無登録農薬の回収状況」「消費者説明Q&A」など最新の情報を県のホームページに掲載しています。

<http://www.pref.yamagata.jp>



国民の森林・国有林

慈しみ育んだ
 信頼の年輪 国有林材

東北森林管理局

〒010-8550 秋田市中通五丁目9-16

印刷所

渡辺活版所 定価 一部二〇円

森林やまがた10月号 平成14年10月1日発行 通巻第67号

監 修 山 形 県
 編集・発行 山形県森林協会
 〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
 TEL 023-631-6566 023-622-8823
 FAX 023-631-6573

「ゆとり都」森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>
 第53回全国植樹祭ホームページ <http://www.shokujusai-yamagata.jp>

古紙配合率100%再生紙を使用しています